

プログラムの概要

形成外科の基礎教育後、外来ならびに病棟において診療スタッフの一員となり、指導医のもとで受持患者の治療に積極的に参加していただきます。また、原則としてすべての手術の助手となり形成外科手術の基本を習得します。

達成目標

① 1カ月プログラム:

- 1) 創傷治癒過程を理解し、創の評価ができる
- 2) 形成外科的皮膚縫合法を修得する

② 2～3カ月プログラム:

- 3) 顔面骨骨折の診断ができ、治療計画をたてられる
- 4) 頭蓋顔面、四肢および躯幹の発生を理解し、体表の形態異常を評価できる
- 5) 皮膚縫合糸材料の特性を理解し、適切な選択をすることができる

以上を目標に研修を行います。

アピールポイント

形成外科は、下記のような幅広い疾患を取り扱います。

- ① 先天性疾患 耳介・顔面の先天異常、四肢の先天異常、母斑など
- ② 後天性疾患 外傷・熱傷後の瘢痕、褥瘡や潰瘍、皮膚・軟部腫瘍切除など
- ③ 癌切除後の再建 マイクロサージャリーを用いた組織移植による「がん切除後の再建(乳房再建、頭頸部・顔面再建など)」
- ④ その他 眼瞼下垂症、性同一性障害、美容外科など

平成24年に診療科として独立し、令和5年4月現在、形成外科医が7人(うち日本形成外科学会認定専門医が4人)で診療しています。顔面骨骨折、頭頸部癌切除後の再建、乳房再建、眼瞼下垂症など、形成外科・再建外科全般の診療を幅広く行っています。

当科は、性同一性障害(GID)の外科治療を行っている本邦でも数少ない学会認定施設の一つです。FTM(女性→男性)の乳房切除とMTF(男性→女性)のSRS(性別適合手術)などを当院で取り扱っています。



具体的な研修内容

形成外科で取り扱う皮膚、骨格筋、感覚器、神経の解剖、生理、病理を理解した上で、診断と手術を中心とした治療技術の基本を習得していただきます。

- (1) 形成外科的診療法・記載法
- (2) 手術前・後の管理
- (3) 創処理
- (4) 形成外科諸手術の助手
- (5) 形成外科的縫合法・真皮縫合法
- (6) 小範囲の植皮片の採取など

卒後3年目以降の研修体制

日本専門医機構による新専門医制度で、当科は、基幹病院として独自の専門研修プログラムを組み、承認されています。杏林大学医学部附属病院などと連携して、履修後に形成外科専門医の取得が可能となっております。